

夫の喫煙により乳がんリスクが増大～日本の研究から～

乳がんに対する喫煙の影響は未だ不明のままである。本研究では、日本の地域住民を対象とした前向き研究（高山スタディ）において、本人または夫の喫煙状況と乳がん発症率との関連について検討した。

35歳以上の女性 15,719人を対象に、1992年9月から2008年3月まで追跡した。乳がん発症率は地域のがん登録で確認し、喫煙状況などのライフスタイルは各自記入する質問票で、またアルコール摂取量は食物摂取頻度質問票で評価した。年齢・BMI・飲酒・身体活動・教育・初潮年齢・初産年齢・閉経・子の人数・ホルモン補充療法の既往について多変量調整したところ、本人の喫煙と乳がんリスクとの関連は認められなかった。非喫煙者の女性については、夫も非喫煙者である女性に比べ、1日21本以上喫煙する夫をもつ女性では乳がんリスクが1.98倍となった。また、喫煙する夫をもつ女性の乳がんリスクの増加は、飲酒の習慣がない女性で顕著であった。

したがって、夫による受動喫煙が乳がんの潜在的な危険因子であることが示唆された。受動喫煙による乳がんリスク増大に対する飲酒の影響については、さらなる研究が必要である。

出典：Cancer Science. 2015; 106(4): 455-460